

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日: 2026年2月10日

事業所名: 放課後等デイサービス きみそらBase登戸

対象人数(保護者)12人 回答者数 11人 回収 91.7%

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1			集団の時のお部屋がもう少しスペースあるといいな、と思います。	放デイの設備基準は、児童一人あたり4m <sup>2</sup> 以上(内法面積)となり、10人定員なら最低40m <sup>2</sup> が必要となりますが当施設の指導訓練室は、43.51m <sup>2</sup> をとなっております。
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	11					引き続きよろしくお願ひいたします。
	③ 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10			1		”構造化”されるとは、特性に合わせて絵カードなどを使って支援いたします。当事業所でも、お子様に合わせて支援(活動)にて実施しております。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10			1		運動(走る時)には道具をしまう・必要に応じて道具をだすなどを行い環境の調整をし、活動に集中できるようにしています。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				すごくよく見てくださっていて助かっています。	ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑦	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	11					ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	1				ガイドラインにつきましては、オンライン上にて、ご確認していただけるようになります。 支援計画時に、ご確認させていただきます。
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	2		1		活動プログラムに関しては、同じ内容だったとしても、利用しているお子様の特性などに合わせた訓練(内容)になるよう行っています。
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	9			2		週に一回程度、(2階)学童と交流機会を設けております。長期休暇にて、学童イベント（キッザニア・プール教室など）への参加も可能です。よろしければご検討くださいませ。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	1				丁寧な説明を心がけたいと思います。
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11					ありがとうございます、今後も尽力致します。
	⑮	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9	2				HUGにて記録を公開させていただいておりますが、より丁寧な説明ができるよう尽力しています。
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1				面談に関しては、随時開催しております。いつでも受付しております、ぜひいらしてくださいませ。
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10			1		共感的サポートとは”前向きに取り組もうとしている事に対して称賛的な声をかける等”の支援です きみそらBaseでは合言葉やフレーズを使って、前向きにチャレンジできるように支援を行っております。尽力致します
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9			2	都合がつかず参加できていないのですが、議事録というかどんな話が出たのかを共有してもらえると嬉しいなと思いました。	議事録共有の場(HUGにて、活動記録にて)を作つまいりたいと思います。パパ・ママ会(保護者会)の際などにきょうだい児が関わるスペース作りをしています。
	⑲	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1				ご相談をはじめ面談に関しては随時受け付けております。HUG(電話)や直接職員にてお知らせください、お待ちしております。
	⑳	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1				帰り(送迎バス)は次のお子さんへのお送りも為ななかお話することが難しいため、活動内容やご質問などHUGやお電話にてお知らせをいただけすると可能な限り対応いたします。
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	1				わかりやすいよう努めます。
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていますか。	10			1		書類に関しては、カギ付きの書庫について個人情報の管理をしています。また、施設内にはSECOM防犯システムを導入しています。 取扱いについては定期的に職員研修などをしております。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
非常時等の対応	㉓	事業所では、事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			2		各種マニュアル等に関しては、サイトにて確認できるようにしております。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			3		避難(火災・地震・不審者など)訓練は、月に一回不定時間、不定曜日にて実施しております。
	㉕	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10			1		事業所内の設備点検を定期的に行っております。
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8			3	事故が今までないので不明です。 それだけ気をつけてみてくださってるのだと思います。	2025年(2025.12現在)通院を伴うケガは、0件でした。
満足度	㉗	お子様は、安心感をもって通所していますか。	10	1				引き続き、お子様に安心してワクワクしていただけるような環境を提供していきます。
	㉘	お子様は、通所を楽しみにしていますか。	9	2				引き続き、お子様に楽しんでいただけるような環境を提供していきます。
	㉙	きみそらBase登戸の支援に満足していますか。	11					みなさまのお声大変光栄でございます。 引き続きよろしくお願ひいたします。

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	きみそらBase登戸				公表日	2026年2月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	-	(サービス時間を区切り) 年齢や必要な支援に応じて支援している	限りある中で、常に「良いものへ」と変更していきます	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	-	引き続き、配置に関しては、適正人数を下回らない範囲にて運営に努めてまいります	-	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	-	(開所してから) 運営について定着してきました「個々に応じた対応」職員にて検討・実践する必要がある	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	-	施設内に関しては日々掃除しております	道路側・裏側に関してはガラスが汚れいることが多い為、曜日を決めて清掃してまいります	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	-	クーラダウン等必要に応じて個別のお部屋や相談室など使えるようにしている	-	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	-	社内で作成された(目標管理)シートを使用して、担当業務を振り返る。また、隙間時間にて話をしながら振り返るを設けています	たわいのない内容でも、共有シートを活用していく	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	-	保護者からの評価表を元に職員間で共有をして改善に繋げられるようにしている	-	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	-	社内にてオリジナル共有シートを作成し活用している。職員同士で意見を出し合いながら業務について話し合っている	情報共有の改善点・業務内容については、都度検討材料とする	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	-	(児発・保訪と共に) 外部の方に1年に数回来ていただき相談をしている	-	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	-	-	時間の工夫をしながら、療育の質やスキル向上に繋がっていくよう努めています	
支援体制	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	-	プログラム作成・公表しております	-	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	-	共有や積み重ねができるように、社内にて個人情報の扱いに留意しながら作成している	-	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	-	支援職員も、目を通すだけでなく、記入など携わる機会を設けている	-	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	-	職員間では共有できている	常勤ではない職員への共有方法に関して、伝わりやすくわかりやすいオリジナルの情報共有を用いていく	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	-	-	(児発・保訪と共に) 先を想定するアセスメントと計画作成	

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	-	引き続き、実施して参ります。	各支援においてさらに必要とされる分野に特化していく
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	80%	20%	-	”事前周知”ができるように、情報共有の仕方に関して課題
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	-	-	入室時間が異なる点、低年齢に合わせた内容になってしまって、蓄積や振り返りを行うことを実施する
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	-	お子様に合わせた内容にて作成・支援をしている	偏りがないように、各職員にて情報共有をする
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	60%	40%	-	設問の「必ず」に関してネガティブに感じるため共有方法に関して、伝わりやすくわかりやすいオリジナルの情報共有の活用や修正を行う
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%	記録を書きながら伝えている	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	-	HUGを用いて、日々の記録を保護者と共有している	記録に関して、”最善であり、良質なものなのか?”を定期的に見直していく
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	-	Googleフォームを利用し、保護者や職員からのモニタリングを実施している	適切さや、利便性を考慮して日々検討していく
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	100%	-	実施できているように感じる	第三者が理解できるような言語化を目指す
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	-	足元ではなく、「一步先」「その先」を見据えての療育を実施	利用されている方・これから検討されている方への周知を行う
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	-	(児発・保訪と共に) 必要に応じて実施している	-
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	-	(児発・保訪と共に) 必要に応じてご意見・相談をさせていただいております	-
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	-	当教室では、上階施設（学童）との送迎を実施。	お子様の送迎に関しては、相手側・当社にて共有事項の更新・修正
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	-	共有体制はできている	現状、きみそらBaseに対してのニーズや受容先が少ない
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	80%	20%		該当児童が現在いない
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	80%	20%	-	連携の為の時間や環境を作る工夫をしていく
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	100%	-	同学童運営のお子様との活動・交流がある	利用を希望する場合のバックアップサポート

保護者への説明等	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	80%	20%	開所当時は参加していた	最近は、不参加が続いている
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	-	HUGでの記録公開や、面談等を必要に応じて機会を設けております	全利用家庭へのコミュニケーションがとれるように、そのご家庭にあわせたものを実施していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	-	・パパママ会を行っています ・家族間での交流の機会を設けています	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	-	当事業所でしか閲覧できない、ファイル（紙媒体）ではなくオンラインにて閲覧できるようにしている	QRコードや、URLにて告知をしているが、「更新」の頻度を上げ、誰しもが「認知」する
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	-	計画を作る際には面談等で確認をしながら作成をしている	相違がないように、コミュニケーションの頻度をあげる
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	-	丁寧に適切に同意を取らせていただきます	-
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	-	面談やHUG（チャット機能）にて連絡を取れるようにしている	全利用家庭への実施を行う
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	-	施設内行事（パパママ会・研修会・もちつきや夏祭り等のイベント）をしている	全利用家庭の参加を目指す
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	-	保護者に寄り添いながらお困りがあれば随時行っている	-
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	-	施設内ではHUG（活動記録）にて、外部向けには発達ナビにて情報を掲載している	-
非常時等の対応	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	-	特に、写真を撮る時には十分気を付けています	-
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	-	丁寧に対応しています	知識に関しては常に向上していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	-	イベントを開催して、近隣・地域の方も参加できるようなイベントをしている	毎年行うため、飽きさせない内容
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	-	共有ファイルにてその都度更新をしながら職員に周知している	新しく入社される方にも、わかりやすい格納にする
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	-	行っています	新しく入社される方にも、閲覧しやすいものをする
非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	-	契約時や、面談にて確認をしている	随時情報のアップデートを行う
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	80%	20%	アレルギーには施設内職員誰しもが目にする場所に掲示	指示書に関しては、要確認する
非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	-	避難訓練を実施している	法定以外での実施を行う

△応	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	-	入所時に説明をさせていただいております	-
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	-	ヒヤリハット報告書に関しては、毎日の閲覧情報欄にて掲載・共有している	-
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	-	所定回数にて実施しています 気になっている事に関しては、共有しています。 子どものケガなど気になる事を発見している時には共有しています。	-
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	-	利用開始時に説明を行ってあります やむおえない場合にはHUG等でお知らせしています	-

(公表) 事業所における自己評価総括表 ／ 放課後等デイサービス

○ 事業所名	きみそらBase登戸 (放課後等デイサービス)	
○ 保護者評価実施期間 (HUG)	2025年11月22日 (土) 23:55 から 2025年12月14日 (日) 23:55まで	
○ 保護者評価有効回答数	対象者 12人	回答者数 11人 ( 91.7% )
○ 従業員評価実施期間	2025年12月27日 (土) から 2026年1月9日 (金)	
○ 従業員評価有効回答数	対象者 5人	回答者数 5人 ( 100% )
○ 事業者向け自己評価作成日	2026 年 2 月 10 日	

○ 分析結果

事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること		工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自己を知る自分の特性を知る支援	客観的に自分を見る為の場面設定	芝居力向上
2	特性に対応する力につける支援	暴れてもいい壊してもいいまずはダメな自分を出していい場所 どうしてほしいかを試していく場所	保護者への理解
3	生活力につける (おいしいおやつ自分で作る)	自分で作る・お皿を洗うなど生活につながる事をしている	生活力スキル向上のための調理となるようにする

事業所の弱み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること		工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重度の障害に対するスキル不足	強度行動障害の研修を受講 喀痰対応講習受講など	環境設定など
2	専門的な心理・言葉などに対する知識を付けていきたい	専門的知識をもつ職員の療育を不定期に実施していく	心理職員等の採用
3	定員 10名	希望される方を受け入れることが出来ない	保護者ニーズをお受けできるよう拡大していく努力